



ちた 愛知県知多市立 知多中学校

毎日の宿題をeライブラリから配信 ～校内で家庭学習のルールを決め、学年ごとに課題を出題～

知多中学校では全学年、毎日の宿題をeライブラリの課題配信機能を使って出題しています。今回は校内での運用ルールや、課題に取り組む生徒の様子についてご紹介します。

平日は5教科、土日祝日は実技教科+読解スキルを出題

1年生 家庭学習 出題予定表				
9月				
4	月		国語	小6 いろいろな言葉 慣用句(1)(2)
5	火		数学	中1 正の数・負の数の加法、減法 加法と減法が混じった計算
6	水		理科	中1 植物 葉の性質 「葉の構造と性質(1)」 「光合成と性質(2)」
7	木		社会	中1 歴史 人類の進歩と文明 「メソポタミア文明」「エジプト文明」「インド文明」
8	金		英語	中1 Unit 1 家族と一週間 「わたしは〜です。」「あなたは〜です。」「まだ〜です」
9	土		4科+α	中学1年読解スキル 文章のつながりをとらえる 接続詞から予測する(1)(2) 言い換え関係をとらえる まとめる言い換え(1)(2)(3)
10	日			
11	月		国語	小6 いろいろな言葉 反対語(1)(2)
12	火	学校訪問	数学	中1 正の数・負の数の加法、減法 分数、小数の混じった計算
13	水		理科	中1 植物 葉の性質 「葉の構造と性質(1)」 「光合成と性質(2)」
14	木		社会	中1 歴史 人類の進歩と文明 「中東文明とその発展」「ギリシャとローマの文明」「中世のヨーロッパ」

▲eライブラリの教材名で計画表を作ります

知多中学校では毎日の宿題として、eライブラリに取り組んでいます。**曜日ごとに教科を決め、各学年の教科担任が復習用の課題を決定し、計画表を作って**担任や学年主任から対象の課題を配信しています。

平日の5教科だけでなく、土日祝日は**実技教科や読解スキルのドリルを出題**して、習慣化を図っています。リトライして最後まで解くことをルールとして指示を出しています。

課題の出題状況は一覧で確認



▲課題の出題状況を先生が一覧でチェックします

課題の提出期限は2日間と設定し、先生は出題日翌日の朝に提出状況を確認し、未提出の生徒には期日までに問題を解くように伝えます。

実施状況や点数だけでなく、かかった時間やリトライの有無も確認をしています。初回の点数が低くても、リトライをしているのを見ると、生徒が最後まで諦めずに問題に向き合ったことがわかります。

提出状況が一覧ですぐに確認できるため、先生も毎日の宿題のチェックにかかる負担が減りました。

インタビュー 家庭学習の定着化と保護者の理解を見据えて

これまでは各教科でワークを購入していましたが、**eライブラリでの家庭学習をしっかりと定着させ、保護者の理解も得たい**と思い、今年度より全学年eライブラリでの宿題の運用を開始しました。

eライブラリは生徒にとって取り組みやすく、特に書くことに抵抗感がある生徒には、とても効果的であると感じています。

今後は生徒自身で苦手なところや自分に必要なところを考え、補完していくような学習をしていってほしいと考えています。



学習担当
小原 佑太 先生

授業の導入時に宿題の中から関連単元のドリルを復習



▲全員集中して取り組んでいます

数学の授業では、**導入の5分間で宿題の中から本時の内容に繋がるドリルの基本問題を出題**して取り組んでいます。導入の短時間で取り組むことにより、宿題で行ったことを思い出し、少しでも知識を定着させたいというねらいがあります。

号令とともに一斉学習がスタートするため、生徒はすぐに問題に取り組みます。先生は正答率や進度を見ながら机間指導をし、生徒の理解度を把握したり、個別フォローを行ったりしています。

取り組みのポイント

★宿題と授業で活用している竹下先生に、eライブラリの活用ポイントを伺いました！

- 授業では、**開始5分間を制限時間**に決めて、**一斉学習**で取り組む
- 宿題では、**教材指定学習の期限設定モード**で設定する
- 宿題は、授業の終了時に配信。事前に課題のセットを作成し**【一時保存】**をして、当日の授業の進度を見ながら配信することで、誤送信やミスを防ぐ。
- 履歴では、**正答率・時間・リトライの有無**を確認。正答率が低い単元は授業を見直す

インタビュー きっかけは「ちょっとやってみるか！」

最初にeライブラリを使い始めたのは「**ちょっとやってみるか！**」という**気持ち**でした。生徒にとって、タブレットと問題集では、どちらの学習が取り組みやすいか、手を付けやすいかと、模索しながら始めました。思っていた以上に生徒がしっかりと取り組んでいたのも、「お、やるな!」と思い継続したところ、徐々に定着していきました。

今後は、**その日の授業の宿題や復習だけで終わらず、家庭学習と学校での学習を入試に直結させるために、どんな宿題の出し方をすればよいのか**検討していきたいと思っています。



数学担当
竹下 陽太郎 先生

インタビュー 池山 祐子 校長先生のお話

I C Tはこれからの時代を生き抜くのに必要不可欠な技術であり、I C Tがない時代に戻ることはないでしょう。生徒には、I C Tの正しい技術を身に付け、それを**手段として有効に活用して欲しい**と思います。I C Tが生徒の学びに向かう力の一助となり、生徒が来るS o c i e t y 5 . 0の時代をたくましく生きていくことを願っています。